

道

2025・3・26
通信 No 1824



「ジャノメエリカ」

今日の練習 6時30分～ 岡野中学音楽室 小坂・二宮先
4月2日(水)6時30分～ 岡野中学音楽室 清水・小坂先生

～春を迎えて～

老々介護が始まって3度目の春がきた。

夫は要介護5、病名は「末梢神経障害」と診断されて、3年前の8月に歩けなくなりベッド上の生活になった。いわゆる寝たきりである。

最初の頃は介護する方もされる方も何をどうして良いかもわからず、ドタバタしている内に季節は通り過ぎて行った。その間も私は「歌と朗読はやめないからね。」と宣言して、そのための努力はしていた。動くことが出来なくなった夫の心情に寄り添っていたとは言い難い。

昨年春には「笑顔が少ないね」と言われるようになった。

夫は動けない以外は苦痛を訴えることはなく、「介護は出来る。大したことではない」とずっと思っていた。次第に心身の不調が出て「この程度のことで」と忸怩たる思いに駆られ、それが又ストレスになった。

半年前「これ以上在宅介護は無理」と宣言して、3泊4日が限界だったショートステイを少しずつ延長した。初めてショートステイから帰宅した時は「もう絶対に行かない」と言っていた夫だったが、何も言わなくなった。

思うことは色々あるのだろうが、仕方ないと自分を納得させたのかもしれない。そんな時、ケアマネジャーを長年経験した友人からの言葉にハッとした。

「施設で暮らすことがかわいそうだと思うのは偏見だよ。具合の悪い家族の介護より、プロの介護を受けて貴女が元気である方がご主人も幸せと思うけど。」

そして今年、希望していたホームの「本入所するまでロングステイ可能」となり、正直ホッとした。元気もやる気もなかった私を姉や多くの友人たちが励まし助けてくれた。本当に有難かった。

これまでの在宅介護では色々な方にお世話になった。

ケアマネジャーのHさん、訪問医師のA先生、看護師のNさん、リハビリのMさん、ヘルパーのOさん。どれだけアドバイスを受けたか分からない。

皆さん優しく力強く支えてくれた。

夫の正式入所は近いが、今後も穏やかな日々を過ごして欲しいと願っている。

アルト 菅野明子

会議予定 3月 26日(水) 3時00分～ プログラム委員会 県民サポートセンター
4月 2日(水) 2時30分～ 運営委員会 県民サポートセンター